

中 強く 正しく 明るく

校訓 HP <http://www.ednet.tamano.okayama.jp/jhs-hachihama>



令和7年12月12日発行

人権教育講演会

人権週間は、毎年12月4日から10日までの1週間で、1948年12月10日に国連で「世界人権宣言」が採択されたことを記念し、日本では昭和24年から実施されています。本校でもこの人権週間に合わせて、人権教育講演会を開催しました。

今年度は為清淑子先生を講師にお迎えし、「ありのままのわたし、大切なあなた」というテーマでお話をいただきました。男女の性やからだのこと、「聞くと聴くの違いは?」「好・恋・愛の違いは?」「男らしい、女らしいとは?」など、みんなで考えを交流させながらのご講演でした。また、いじめやデジタル暴力のことについてのお話もありました。「自分を大切にする=自分の気持ちを話す、相手を大切にする=話を聴く、みんなを大切にする=ルールを守る」ことの大切さを話されました。そして講演の最後には、「あなたは大切な人です そのままのあなたが大好きです」の「あなた」を「わたし」に置き換えて、「わたしは大切に人です そのままのわたしが大好きです」と自分にも言ってねとメッセージを伝えてくださいました。



【生徒の振り返りより(抜粋)】

- ・互いの気持ちの相互性って大事ななあと思った。
- ・どんな人にも優しく、思いやりをもって生活をしていきたいと思った。
- ・一人一人の考えが違って、意見を尊重し合うことが大事。
- ・自分の生き方について考えることができたと思う。また、色々な人が気になっていることなどに寄り添ってはなしてくれてとてもよかった。これから、自分も大事だけど、自分と関わる相手も大切にしていきたい。
- ・相手はもちろん、自分を大切にすることが大事だと感じた。
- ・性のことについて深く知ることができた。知らないことを知ることができてよかった。親しき仲にも礼儀ありとは言いが、様々な行動に了承をもらわないといけないことに驚いた。
- ・何よりも自分自身を大事にするということが大切なのだと改めて認識した。また、今までの自分自身の行動を振り返って、誰かに嫌な思いをさせてしまっていたことはないか、もしさせてしまっていたら、これからどう改善すべきなのかを考え、知ることができた。

はちくい

12月2日(火)の放課後に、「はちくり」の活動を行いました。「はちくり」とは「八浜クリーン作戦」に由来する生徒主体で行われる環境整備活動です。今回はボランティア76名の生徒が参加し、校内、校外のグループに分かれ、ゴミ拾いや落ち葉集めなどを行いました。



薬物乱用防止教室



薬物乱用防止教室では、神戸税関水島税関支署宇野出張署から2名の方が来校され、税関の仕事や、実際にあった摘発の事例等を交えながら、薬物の有害性についてお話をいただきました。

また、薬物の知識だけでなく、誘惑への対処法や断り方も学ぶことができました。



12月3日(水)に3年生を対象に「薬物乱用防止教室」を実施しました。

- ・違法薬物は危険なものである、強い意思を持って使わないようにしないといけないと思った。
- ・もし誘われたときには身振りなどで断ったり、理由を言ったり、逃げたりすることが大切だということを知った。
- ・薬物の怖さや危険さが改めて分かった。
- ・違法薬物は一回摂取しただけで、心身に深刻な影響を与えるので、絶対に摂取してはいけない。

認知症サポーター養成講座

12月4日(木)に3年生を対象に、玉野市社会福祉協議会地域包括支援センターから4名の方が講師となり、認知症サポーター養成講座を実施しました。「認知症サポーター」とは、認知症について正しく理解し、偏見を持たず、認知症の人や家族を温かく見守り、出来る範囲で手助けをする「応援者」です。この講座を受講した生徒には、「認知症サポーター」であることを示すオレンジリングが渡されました。



- ・認知症について詳しく知ることができた。周りの人が認知症になった際に、どのような鼓動をするべきなのか理解できた。
- ・認知症に戸惑うことなく、落ち着いて対応できる。
- ・認知症の方が少しでも過ごしやすい環境にすることは大事だと思った。
- ・認知症について詳しく分かりました。認知症の方と接する時は優しくしたいなと思いました。
- ・広い心をもって、見守り、声かけをする。
- ・困っているお年寄りがいた時に、迷うことなく助けることができるようになりました。時には協力して、人の力になれるように努力していこうと思いました。
- ・今回教えていただいたことを活かして、身近に認知症の方がいる時は、サポーターとして応援できるようにしたいと思いました。

南極クラス講演会

12月5日(金)に1、2年生を対象に、南極クラス講演会を実施しました。講師は、第62次南極地域観測隊 越冬隊(2020年11月~2022年3月)に参加された、久岡哲也さんです。ご自身が南極で体験されたことだけでなく、自然環境の話や、南極で共に過ごす隊員同士のチームワークの大切さなど、貴重な映像とあわせてお話くださいました。



- ・いろいろな実験や南極での暮らしがよく分かってとても面白かったです。
 - ・動物の鳴き声とか意外だったし、オーロラとか綺麗だった。
 - ・オーロラの話や白夜、極夜の話聞いて南極に興味を持った。いつか行けるときがあったらいいなと思った。
 - ・いつもは見られない、聞かないような話や写真を目にしてとても感動しました。南極の環境や南極にいる動物について知り、南極がどのような場所なのかを理解することができました。
 - ・アデリーペンギンの喧嘩と皇帝ペンギンの赤ちゃんがとても可愛く、南極に行きたいと思いました。
 - ・南極大陸が世界の氷の約90%を占めていることが分かったけど、最近は環境問題も課題となっているので南極大陸の環境を理解することが大切だと思った。
 - ・南極の氷が全部溶けたら、50メートルになるのがびっくりした。
 - ・南極の仕事についてとても興味と関心を抱いた。今日の31人の大先輩の言葉を念頭に置いてこれから生活していきたい!
- 〈久岡さんの言葉: 自分にうそはつけない 後悔のない人生を!〉



2学期もあとわずかになりましたが、学期始めに立てた目標は達成できたでしょうか。振り返りをして、また次につなげていくことが大切です。「1年の計は元旦にあり」ということわざがあります。この意味は、「物事は最初が肝心である」ということです。冬休みは約2週間ありますが、新たな1年の始まりに、次の目標を立て、達成するためにどんなことをしていけばいいかを具体的に考えてみましょう。

そして、規則正しい生活を心掛け、健康に気を付けて過ごしましょう。

